
■■■ 福祉社会学会ニューズレター 第 76号 ■■■
Japan Welfare Sociology Association Newsletter No.76

[http:// jws-assoc.jp/](http://jws-assoc.jp/)

E-mail: maf-ws@mynavi.jp

***** INDEX *****

- 事務局からのお知らせとお願い
- 大会関係
- 2024年度活動方針
- 第23回大会のお知らせ
- 『福祉社会学研究』第21号刊行と第22号の投稿募集
- 2024年度研究例会第1回のお知らせ
- 理事会報告
- 新入会員紹介

■事務局からのお知らせとお願い

●住所変更や Email のアドレスを変更した場合は、必ず学会事務局（毎日学術フォーラム）にお知らせください(maf-ws@mynavi.jp)。周辺で Newsletter を受信できていない方がいる場合は学会アドレスまでご連絡くださいますようお願いいたします。

■大会関係

【第 22 回大会】 第 22 回福祉社会学会大会が、去る 2024 年 6 月 29 日・30 日に津田塾大学にて盛況のうちに開催されました。参加者は 136 名でした。

【総会報告】 大会初日 6 月 29 日に理事会が開催され、諸案件について承認・決定されました。これを受けて、大会 2 日目昼休みに総会が開催されました。総会の開始にあたり高野和良会長の挨拶、森川美絵大会実行委員長の挨拶がありました。引き続き、大岡頼光会員（中京大学）が議長に選出され、議長の進行のもと報告と審議が行われました。

●報告事項・審議事項(主要なもの)

1. 委員会報告：庶務・事務局報告

米澤庶務理事より、学会の現況について以下の報告があった。

- (1) 2024 年 6 月末日現在の会員数は 471 名である。
- (2) 文献ガイドの若手会員への配布事業を行い 21 名に配布した。
- (3) 能登地震の会費減免措置については申込者がなかった。

2. 研究委員会

三井研究委員長より以下が報告された。

- (1) 第 22 回大会は津田塾大学で開催され、コロナ以前と同様の参加者があった。
- (2) 研究会を 10 月に実施し、樋口拓朗（東京大学大学院）氏による報告「介助者の葛藤と罪責感の当事者研究－他害・触法に問われる障害者の地域移行と安全保障をめぐって－」がなされた。

3. 編集委員会

上村編集委員長より以下が報告された。

- (1) 福祉社会学研究第 21 号が刊行された (2024 年 5 月 31 日)。
- (2) 自由投稿論文の投稿数は 9 本で、掲載数は 4 本であった。書評は 7 本だった。
- (3) 福祉社会学研究第 22 号の特集論文は編集委員会独自企画と第 22 回シンポジウム企画の 2 つから構成する。
- (4) 査読制度は会員のボランティア的な協力のもとで行われている。よりよいコミュニケーションの場としてほしい。

4. 20 周年記念事業委員会

高野委員長より以下報告された。

- (1) 福祉社会学会を編者として『福祉社会学文献ガイド』を学文社より刊行した。
- (2) テーマセッションが盛況のうちに終了した。

5. 社会学系コンソーシアム

鎮目理事より、これまでの理事会の開催経緯とシンポジウムの予定について報告された。

6. 社会政策関連協議会

藤間理事より、シンポジウムの報告と、次期会計を福祉社会学会で担当することが報告された。

7. 2023 年度決算の提案・監査報告

寺田理事より 2023 年度決算案が提示され、説明がなされた。金子監事より、監査結果が報告され承認された。

8. 2024 年度活動方針案

米澤理事より、活動方針案が提案され、承認された。

9. 学会 HP のリニューアルについて

米澤理事により、学会 HP の課題とリニューアルの提案がされ 2024 年度より、学会 HP のリニューアルを目指すことが承認された。

10. 2024 年度活動方針の提案

寺田理事より 2024 年度予算案が提案され、承認された。

11. 第 23 回大会開催校の提案

高野会長より、2025 年に行われる第 23 回大会を関西学院大学で開催することが提案され承認された。

■2024 年度活動方針

1. 福祉社会学会は、これから、福祉 (welfare、well-being) や社会政策の社会学に関心を持つ研究者中心の学術団体として活動していきます。
2. 第22回大会を、2024年6月に津田塾大学で開催します。2025年度開催の第23回大会についても、その準備を進めていきます。
3. 機関誌『福祉社会学研究』の第22号の刊行に向けて、編集作業を進めていきます。
4. 大会に加えて、多様な研究テーマに基づく研究活動に積極的に取り組み、あわせて学会活動の国際化に向けての取り組みを継続します。

5. 日本学術会議の協力学術研究団体として、いっそう他の学術団体との連携に努めていきます。
6. 学会活動や研究成果の対外的発信にいっそう努めていきます。
7. 学会HPの改修の検討も含め、会員への情報・サービス提供の充実と事務作業の簡便化を進めるとともに、確実な情報提供につとめていきます。

■第 23 回大会のお知らせ

福祉社会学会第 23 回大会は、2025 年に関西学院大学で開催されることになりました。詳細は決まり次第、ニューズレターおよびホームページでお知らせいたします。

■『福祉社会学研究』第 21 号刊行と第 22 号の投稿募集

●【第 21 号の刊行】『福祉社会学研究』第 21 号(Journal of Welfare Sociology, No.21)が刊行されました (ISSN 1349-3337 ISBN 9784762033049)。目次は以下のとおりです。

■特集論文Ⅰ 福祉社会学の課題と展望——学会設立 20 年に寄せて

- 特集 福祉社会学の課題と展望——学会設立 20 年に寄せて……………平野寛弥
男女共同参画の進展と子どものライフコースの不平等
——計量家族研究からみた福祉社会科学研究の課題……………稲葉昭英
福祉社会学におけるケア研究——臨床研究と政策研究の架橋……………森川美絵
過疎内包型地域圏としての過疎地域把握
——過疎高齢者と近隣地方都市の他出子との関係をもとに……………高野和良

■特集論文Ⅱ 副田社会学の継承と発展

- 特集「副田社会学の継承と発展」に寄せて……………畑本裕介
知的職人の社会的知の系譜——副田義也・福祉社会学研究からの学び……………藤村正之
副田先生の社会学——社会学の「論文を書く」について……………株本千鶴
副田社会学における「生活構造論」の現代的意義
——後期近代におけるライフ・ポリティクスの解明に向けて……………玉置佑介

■自由論文

- 地域包括ケアの主体としての住民リーダーに関する考察
——主体形成のプロセスと内在する考えに着目して……………鈴木美貴
他害・触法に問われる障害者の地域移行と安全保障
——介助者の葛藤と罪意識に着目して……………樋口拓朗
放課後等デイサービスにおける支援の論理の複数性
——支援者の意味世界に着目して……………白石恵那
中国地方都市における息子たちの老親扶養規範
——きょうだいを持つ中年男性の語りから……………李姝

■書評

- 西下彰俊著『東アジアの高齢者ケア——韓国・台湾のチャレンジ』……………須田木綿子
- 野辺陽子編『家族変動と子どもの社会学
——子どものリアリティ／子どもをめぐるポリティクス』……………三輪清子
- 神原文子・田間泰子編『ひとり親のエンパワメントを支援する
——日韓の現状と課題』……………相馬直子
- 加藤旭人著『障害者と健常者の関係形成の社会学
——障害をめぐる教育，福祉，地域社会の再編成とポリティクス』…土屋葉
- 国立社会保障・人口問題研究所編『生活不安の実態と社会保障
——新しいセーフティーネットの構築に向けて』……………池田裕
- 吉武由彩著『匿名他者への贈与と想像力の社会学
——献血をボランティア行為として読み解く』……………桜井政成
- 三谷はるよ著『ACE サバイバー
——子ども期の逆境に苦しむ人々』……………野辺陽子

●【『福祉社会学研究』第22号の原稿募集について】

下記要領で、『福祉社会学研究』第22号の自由投稿論文を募集します。

1. 投稿資格：本会会員に限ります。2024年度の加入者については、2024年6月29日開催の理事会までに入会済みであることが条件となります。
2. 論文の種類：自由投稿論文
福祉社会学研究の学術論文とします。
3. 掲載の可否：レフェリーの査読結果に基づき、編集委員会が決定します。
4. 締切：2024年9月2日（月）23時59分必着
5. 論文の分量：20,000字以内（図表等含む）とします。スペースは字数に含めません。
6. [投稿規程](#)、[執筆要領](#)：
 - 投稿規程、執筆要領は『福祉社会学研究』最新号および学会ウェブサイトで必ず確認してください。
 - 論文の分量が超過するなど、投稿規定や執筆要領が守られていない場合には、投稿論文は受理されません。文字数については「投稿申込書」の「(5) 論文の字数」で明示しているとおり、Microsoft Wordの「文字カウント」機能の「文字数（スペースを含めない）」に表示される字数にて本文をカウントし、図表は執筆要領ならびに投稿申込書のとおりに換算してください。この方式にて数えた総字数（本文の字数＋図表の換算字数）が20,000字を超えた投稿論文については受理しませんので、くれぐれもご注意ください。会員の皆さまにおかれましては投稿規程、執筆要領、投稿申込書等を十分にご確認のうえ、投稿してください。

- 書式等形式については、投稿規程・執筆要領の遵守を第一とし、投稿規定・執筆要綱に記載されていない点については、[日本社会学会編集委員会『社会学評論スタイルガイド』第3版](#)への準拠をお願いします。
- 投稿は紙媒体ではなく電子ファイルで行います。投稿の際は、Microsoft Wordの文書ファイルの形式で、メールにて下記編集委員会事務局までお送りください（パスワードを付けた場合には別のメールにてパスワードをお知らせください）。紙媒体の提出は一切必要ありません。
- 「[投稿申込書](#)」は、学会ウェブサイトからダウンロードしてください。
- 投稿にあたっては、学会ウェブサイトから「[自己チェックシート](#)」をダウンロードして、すべての各項目について必ず確認してください。この「自己チェックシート」を提出する必要はありません。
- なお、原則として、編集委員会に届いたファイルの差し替えはできませんので、十分に確認のうえ、お送りください。
- 投稿論文を添付するメールの件名は「自由投稿論文送付の件」としてください。

7. 提出先、問い合わせ先：

メールアドレス toukou.jws★gmail.com（←★を@に変えてください）

福祉社会学会 編集委員会事務局（投稿論文担当）

茨城大学人文社会科学部 富江直子

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1

8. 受領通知：投稿受領後に受領通知をお知らせします。受領通知の発行をもって、論文の投稿が成立します。投稿後1週間以上経過しても受領通知が到着しない場合には、上記編集委員会事務局までお問い合わせください。

●書評対象書の募集について

『福祉社会学研究』第22号でとりあげる書評対象の著作を募集します。

福祉社会学および関連分野の書籍で、会員の著作であること、単著であることを原則としますが、共著・編著でも書評対象とすることがあります。以下のフォームにご記入ください。なお、9月初旬の編集委員会で書評対象に選定された場合、対象書を一冊ご提供いただくことになります（選定前の献本はお控えください）。

入力フォーム：

<https://forms.gle/Lng179ktaciJhqiV7>

■2024 年度研究例会第 1 回のお知らせ

2024 年度研究例会第 1 回を 12 月に下記の要領で開催いたします。ふるってご参加ください。

○日時：2024 年 12 月 7 日（土）夕方（詳細は ML で改めてご連絡いたします）

○場所：Zoom を利用したオンライン開催

（以下、敬称略）

○報告者：本多敏明（淑徳大学） 2024『「排除」の構造とコミュニケーション論的「包摂」』風鳴舎

○討論者：平野寛弥（上智大学）・畑本裕介（同志社大学）

○司会：三井さよ（法政大学）

*詳細については、後日 HP や会員一斉メールでお知らせいたします。

■理事会報告

●福祉社会学会・2024 年度・第 1 回理事会 議事録

2024 年 6 月 29 日 11:30～ 津田塾大学 SA313

出席：阿部彩、上村泰裕、金成垣、鎮目真人、白波瀬達也、大日義晴、高野和良、寺田貴美代、藤間公太、三谷はるよ、三井さよ、米澤旦

欠席：天田城介、岩永理恵

●報告事項・審議事項（一部整理のために実際の審議順より変更した部分がある）

冒頭、高野会長より、開会の挨拶がなされた。

1. 22 回大会運営について、森川実行委員長の代理として米澤庶務理事より説明がなされた。
2. 研究委員会報告：三井研究委員長から、研究委員会の開催実績、第 22 回大会の準備状況、開催済み・開催予定の研究会について報告がなされた。審議事項として、電子印の作成について議論され、検討する方向で承認された。
3. 編集委員会報告：上村編集委員長より、編集委員会の開催実績、学会誌第 21 号の構成と 22 号の特集論文、学会誌の論文掲載状況などについて報告がなされた。査読体制の課題、雑誌刊行費用増について、庶務理事を中心に検討することが確認された。
4. 学会賞選考委員会報告：白波瀬委員長より、方針について説明がなされた。基本的には前回と同じ形で対象、スケジュールを設定すること、委員に関しては委員長を中心に検討し、メール審議で確定すること、候補の機械的ピックアップも含めて検討候補の点数を増やす方向で検討し、12 月理事会で検討することが確認された。
5. 20 周年記念事業委員会報告：高野委員長より、『福祉社会学文献ガイド』の刊行について報告された。
6. 社会学系コンソーシアム報告：鎮目理事より、シンポジウムの企画などが報告された。
7. 社会政策関連学会協議会報告：藤間理事より、社会政策系関連学会協議会が昨年開催したシンポジウムについて報告がなされた。会計担当を引き受けることの承認がなされた。
8. 事務局報告：米澤庶務理事より、会員増減、若手会員への文献ガイドの配布、能登地震の会費減免について報告された。
9. 23 年度決算案の承認・監査結果について：寺田理事より 2023 年度決算案と監査結果の説明がなされ、原案通り承認された。
10. 24 年度活動方針案について：米澤庶務理事より報告・提案があり、一部修正のうえ承認された。
11. HP リニューアルについて：米澤庶務理事より HP リニューアルについて提案がなされ、費用や必要な機能について議論され承認された。

- 1 2. 24 年度予算案について：寺田理事より 2024 年度の予算案の説明がなされ、学会開催校による黒字を予算項目の備考名から削除することが承認された。
- 1 3. 23 回大会開催について：第 23 回大会は、関西学院大学で開催することが決定した。
- 1 4. 会員状況報告、新規入会者の承認：米澤庶務理事より会員数と入会申込者について報告がなされ、14 名の入会が承認された。
- 1 5. 総会の運営について：鎮目庶務理事より大会総会の議事および運営案が提案され、承認された。

■新入会員紹介

2024 年度第 1 回理事会で、以下の方々の入会承認がなされました。

(入会)

【Web 版では省略】

【発行・編集】 福祉社会学会事務局